

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども発達支援センターにじっこ飯塚（児発）		
○保護者評価実施期間	令和8年 2月 3日		～ 令和8年 2月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	42名	(回答者数) 32名
○従業者評価実施期間	令和8年 2月 3日		～ 令和8年 2月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数) 9名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 20日		

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどもの現状を把握し、苦手と感じていることんい対してもこども自身が自主的に取り組める活動を設定している。	・クラス職員が中心に児童の状況把握をし、クラス活動に課題点を取り入れる事で、児童は遊びの中（楽しさの中）で課題に取り組むことができる。 ・状況共有の為、アセスメントを保護者にも協力してもらっている。	・課題設定は児童が難しさを感じすぎない、スモールステップでの設定をする。 ・状況の更新をしていく。
2	職員間の連携	・クラス担任は保育士が主であるが、専門職が個別療育を担当しており集団療育と個別療育が連携し、職員全員で児童のサポートをしている。	・集団活動での課題点を個別担当者と共有しどのような場面設定・教材を使うと良いかを都度確認し迅速に対応していく。
3	保護者とのコミュニケーション	・個人面談の期間を設け利用児童の保護者へ日程調整をお願いしている。 年長児であれば就学へ向け保護者が心配していることを職員が把握する機会にしている。 面談時期でなくても要望があれば面談を行っている。 ・活動参観では、職員とのみではなく保護者同士の交流の場として設定している。	・保護者同士の交流の場を増やしていく。 ・どの職員でも相談しやすい場面設定をする。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の保育園、幼稚園、児童との交流が少ない	・戸外活動の機会が少ない。	・可能な限り地域の行事に参加する。 ・近隣の散歩や地域の公園へ戸外活動として出かけ、遊びに来ている地域児童との交流をすることで新たな課題を見出す。
2	保護者相談	・相談を持ち掛ける保護者は限られていることが現状。 園送迎が多く保護者と直接話す機会が少ない。	・些細なことでも話しやすい関係性や窓口が必要。 ・にじっこでの様子を踏まえて家庭でも取り組める関わりについて職員から助言する。
3	地域住民の行事参加	・地域住民が参加できる行事が計画されていない。	・行事でなくても近隣の住民と関わられる活動を計画していく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		公表日					回収数	
子ども発達支援センターにじっこ飯塚（児発）		令和 8年 4月 20日					42名	32名
		回収率			76.2%	利用児童数	令和8年 3月 20日	32/42
環境・体制整備	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応	
	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	32				・写真で見ると十分だと感じる。	・継続して活動内容や利用児童数に合わせ教室の使用方法を検討していく。
2	職員の配置数は適切であると思いますか。	26	1		5	・人手不足かと思う時が多く職員と長い時間話したいが話にくい。 ・職員が何人いるのかは分からない。 ・子どもメインで写真を撮っている為先生が何人いるのかは分からない。	・送迎時は安全面を考慮し簡潔に話しているが、保護者との話が長くなる場合には面談室や玄関内に入ってもらった会話をしていく。 ・お便り等でクラス担任や個別職員の紹介をする。	
3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	25			7	・見学で見ているが覚えていない。	・教室内や活動時に使用している教材、視覚支援等はお便りを使い保護者への情報提示を行っていく。	
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	30			2		・職員紹介として清掃職員の紹介をしていく。また、感染症の流行する時期には予防や症状の情報等をLINEで伝えている。	
適切な支援の提供	5	子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	30			2	・個別療育もあり個々に合わせた活動してもらっている。	・職員研修として事業所内外の研修に参加していく。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	30			2		・支援プログラムについて保護者へ分かりやすく伝えていく方法を検討していく。
	7	子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	30			2	・日頃の様子を分かりやすく記載されている。 ・保護者のニーズがそのまま計画に反映されているが客観的分析があるのかは分からない。 ・本児の様子や課題、得意な所も伸ばせるように…と計画を立ててもらい取り組み内容もとても分かりやすい。	・継続して児童の現状をしっかりと把握し保護者のニーズと課題を取り入れた支援計画の作成を行っていく。
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	31			1	・“家族支援”は見つけたが、“本人支援”と“移行支援”がどれか分からなかった。	・支援計画の説明時に詳しく“本人支援”“移行支援”の項目を丁寧に説明していく。また、説明時にはどの部分の説明をしているのか指差ししながら行い共通認識を行う。
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	31	1			・言葉だけではなく日常生活に必要なことも支援してもらっている。 ・活動内で分かった課題等にもその都度修正して対応してもらっている。	・クラス担任はもちろん全職員は児童の支援計画について共有できるようにしている。また、月に一度の職員会議では児童の現状について意見を出し合い把握できるように取り組んでいる。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	30	1		1	・活動内容が様々で子どもが楽しそうに参加できている様子が分かる。	・クラス担任が毎月活動プログラムについて話し合いを行い、季節に合った内容や支援計画に反映されるような内容の活動を様々な形で取り入れている。
	11	保育所や認定子ども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他の子どもと活動する機会がありますか。	21	2	1	8	・幼稚園を主にして療育を利用している為、園以外の児とはにじっこで交流していると思っている。	・戸外活動では、地域の公園や近隣の散歩活動を通してにじっこ利用児童以外の児童との交流としてプログラムしている。
12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	32				・契約時にしっかり説明を受けている。	・施設見学時には利用負担についての説明を行っている。 ・契約時には運営規定、支援プログラムの説明を行っている。また、利用料金については受給者証を確認し説明をしている。	
13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	32					・支援計画については分かりやすい言葉を使い保護者への説明を行っている。	
14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	27		1	4	・HUGや直接話す機会があった時に相談し、日常での声掛け等の指導を受け真似させてもらっている。 ・研修会の案内があった。	・活動参観や個別面談、HUG、LINE等保護者の困りごと気になることに対しクラス担任や個別療育担当職員から保護者への助言を行っている。 ・保護者への研修会を計画している。	
15	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	30	2			・“今日の活動”でできたこと、できなかったことの共通理解はできている。 ・HUGや送迎時に情報共有してもらっている。	・送迎時や利用時のHUGにてにじっこでの様子を伝える。気になっていることに関しては職員から保護者へ様子を伺うこともある。	

保護者への説明等	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	25	4	1	2	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者からの要望があればすぐ対応してくれる。 ・担当者会議のみではなくHUGや送迎時にも助言してもらっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者からの相談に関しては迅速に面談をしている。 ・自宅での様子や就学、就園についての相談についても助言や関係機関との情報共有を中心となり行っている。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	30	2			<ul style="list-style-type: none"> ・いつも丁寧に対応してもらっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の気持ちや、保護者の思いに寄り添い尊重していきながらの支援を行っている。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	15	6	1	10	<ul style="list-style-type: none"> ・年に数回のイベント以外では交流がない。 ・参観の時に他の保護者と話をさせてもらう機会があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動参観や季節の行事では、保護者同士が交流できる場面設定や時間の設定をしている。また、時期によっては学年別での参観も設けており保護者同士のコミュニティーの場を設定している。
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	30	2			<ul style="list-style-type: none"> ・HUGやLINEにて対応してもらっている。 ・HUGにて一日の様子を書いてもらっておりそれに対して相談した時には、対応について提案してもらい安心している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者からの相談、申入れについては可能な限り迅速に対応している。 ・内容によっては直接電話での対応をしている。相談内容についても職員への周知を行い支援方法の検討と統一を行っている。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	31	1			<ul style="list-style-type: none"> ・意思疎通が難しいが不満はなさそうに感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者、児童に応じてどのような形の意思疎通が最善であるのかを考慮し情報伝達を行っている。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	28	1		3		<ul style="list-style-type: none"> ・活動の様子や行事の様子については、HUGにて伝えている。行事の案内に関しては、LINEで事前に伝えおたよりでも伝えている。 ・自己評価の結果に関してはホームページに
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	30	1		1		<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報については契約時保護者への説明を行っている。 ・取り扱いの責任者も決めている。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	29		1	2	<ul style="list-style-type: none"> ・全てのマニュアルがあるのかまでは分からない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練を行ったことはHUGにて伝えている。今後は避難訓練実施の報告の際、合わせて法人マニュアルを伝えていく。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	30			2	<ul style="list-style-type: none"> ・HUGにて避難訓練実施の連絡を受けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・月に一度、火災・地震・防犯・風水害を想定した避難訓練を行っている。参加児童にしても毎月全員が参加することはできないが、毎月曜日を変更し該当するよう考慮している。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	31			1		<ul style="list-style-type: none"> ・安全確保についての支援に関してはHUGにて保護者へ伝えている。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	31			1	<ul style="list-style-type: none"> ・HUG、LINEでの説明や報告を受けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・にじっこでの怪我についてはその都度迅速に保護者へ報告している。 ・報告方法としては、電話、LINEやHUGでの対応をしている。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	32				<ul style="list-style-type: none"> ・本人の様子からそう感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安心・安全に通ってもらえる場であるよう職員間で連携しながら支援に努めている。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	31	1			<ul style="list-style-type: none"> ・HUGの活動写真を一緒に見て楽しそうにニコニコしている。 ・幼稚園での行事が重なっている時は渋ることもあるが、帰ってくる時「楽しかった」と言ってくれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動に変化を持たせ楽しみ重視での療育を行っている。 ・児童同士での遊びの時間も大切にしている。
	29	事業所の支援に満足していますか。	31	1			<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな相談等もさせてもらい、いつも助けていただき有難い。 ・いつも丁寧に対応してもらい満足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が自主的に自身の課題に取り組めるよう課題設定は考慮している。“できた”の達成感を大切にしている。 ・保護者の困り感や悩みに寄り添い的確に助言できる場所であることを大切にしている。

公表 事業所における自己評価結果

事業所名	こども発達支援センターにじっこ飯塚（児発）		職員数	9名	提出数	9名	提出率	100%	公表日	令和 8年 4月 20日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点					
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	9		・活動内容に応じて部屋を移動し実施している。 ・クラスの部屋のみではなく地域の体育館を借りて運動遊びを実施している。	・地域の体育館を利用する際や、公園での戸外活動の際には事故防止に気をつける。				
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	9			・体調不良等でクラス職員の休みがある時には、個別療育職員にも協力を依頼する。				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	9		・一日の流れをイラスト付きでスケジュール化し提示している。 ・必要に応じて視覚的情報を用いて指示を出している。	・環境設定に努める。				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	9		・毎日、清掃・消毒をおこなっている。 ・換気を行っている。	・清掃職員と共に館内の清掃を行う。 ・整理整頓を意識する。				
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9		・気持ちを崩しクラスの部屋で落ち着く事が困難な時には、個別療育の個室を使用している。	・児童を一人にする事はなく、安全のためにも見守りは行う。				
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	9		・活動（行事）では、計画書の作成し共有した後取り組む。終了後には、意見を聞き報告書の作成をしている。	・児童の行動予測をした上で計画書の作成を行っていく。児童にとって有意義な活動になるよう意識する。				
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9		・職員会議の際に改善点を話し合っている。 ・活動参観の際には、アンケートを実施している。	・保護者の意向を把握しどのような形で対応ができるのか意見を出し合い実現させる。				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9		・毎月職員会議で意見を出す機会が設けられている。 ・朝礼、終礼で意見を述べる時間がある。 ・クラス職員同士で児童の事や活動のことを話すことができている。	・意見を出しやすい環境を整える。 ・多職種の職員が配置されている為それぞれの意見を反映させ療育に活かしていく。				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	9			・福岡県立大学の方へ評価を依頼している。				
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9		・内部研修のみではなく、外部研修の案内があり希望者は参加出来る。	・固定の職員のみでなく全職員対象で研修に参加できる勤務調整を行っていく。				
適切な支援の	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9		・職員が意見を出し合い支援プログラムを作成している。	・今後も職員全員で意見を出し合いどのような支援を行っていくのか考え作成していく。				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	9		・利用開始時と、新年度にはアセスメントを行っている。	・アセスメント、保護者の意向を踏まえて支援計画書の作成をしていく。				
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9		・クラス担任と相談しながら作成している。	・クラス担任のみでなく個別療育職員からの意見も反映させていく。				
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9		・定期的な職員会議の中で職員間で意見を出し合い共有している。また、日々の中で気付いた事などは都度相談したり、朝礼終礼で共有している。					
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	9		・市や病院で受けている発達検査等は共有してもらっている。	・今後も発達検査を受けると報告を受けた時には結果の共有をお願いする。				
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9							
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9		・クラス担任が交代で一カ月の活動プログラム立案をしている。					

提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9		・活動プログラムについて意見を出し合う時間を設けている。 ・以前の児童の様子を踏まえ活動内容の検討をしている。	・活動プログラム立案と行事担当が重ならないよう配慮する。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	9			・個別療育と集団療育の職員がいつでも児童の状況がアップデートできているよう協力していく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9		・終礼では翌日のクラス活動の確認をする。朝礼でも当日の活動予定を職員で共有している。 ・クラスに入る職員についてはお互いに協力しながら配置している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8	1	・パート職員は退勤時間が早い為共有できていないこともある。	・クラス担任同士は必ずその日のうちに活動（支援）についての情報共有をしていく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9		・毎日、記録し児童の様子について記載している。気になる事がある時には見直しをして対応方法の検討を行っている。	・支援計画についてのみの記録ではなく、保護者からの報告についても記録していく。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9		・職員会議の中で達成、未達成の判断や見直しを行っている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9		・クラス職員や管理者が担当者会議に参加している。	・会議に参加した職員は議事録を作成し必ず内容の共有をする。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9		・送迎時には児童の様子について報告している。 ・地域の保健師とは密に連携している。	・地域の保健師や園と密に連携し総合的サポートができるよう考慮していく。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	9		・送迎時や保育所等訪問、担当者会議で児童の様子を伝えている。	・保護者の要望がある時には園へ訪問し支援していく。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	9		・引継ぎシートの作成をしている。 ・飯塚市幼保小連絡会への参加をしている。	・就学へ向け保護者と共に引継ぎシートの作成や、就学までの流れについての講習を行う事で共通認識を深める。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組を行っているか。	6	3	・事業所の併用をしている児童に関しては会議等で会い現状確認と情報共有をしており連携できている。	・にじっこのみでのサポートではなく地域全体で児童のサポートができるよう、他事業所との連携を行っていく。
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	9		・外部研修に参加している。	・研修案内が届いた際には、積極的に参加していく。
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	9		・子ども部会へ参加している。	
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	7	2	・戸外活動、地域の公園へ行った際には遊びに来ている地域の児童と一緒に遊ぶ機会がある。	・回数が少ない為、季節に応じて積極的に取り入れる。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9		・HUGにて報告している。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	9		・活動参観では保護者同士が関わりが持てる時間を設けている。	・保護者との面談や相談会を計画していく。	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9		・契約時に説明している。 ・玄関に掲示している。	・分かりやすい言葉で説明していく。	
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9		・面談にて保護者意向の確認をしている。 ・自身の意向を伝えることができる児童に関しては聞き取りを行っている。		

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	9		・分かりやすい言葉を使用し支援計画を立案している。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9		・新年度に保護者面談を行っている。 ・希望時には迅速に対応している。 ・送迎時に相談があった時にはその場で対応している。	・保護者が話しやすい関係を築く。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	9		・父母の会はない。 ・活動参観では父母、兄弟児も参加することがあり交流がある。	・家族が参加できる行事を計画する。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9		・相談があれば迅速に対応しその後は職員で共有する。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	9		・インスタグラムやお便りを発行している。 ・日々の様子はHUGにて写真付きで配信している。	・お便りを季節ごとに発行していく。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8	1	・児童書類を保管しているロッカーは誰でも見れる状況になっている。 ・写真については保護者へ承諾をもらっている。	・ロッカーに鍵を閉めるようにする。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9		・児童に合わせた声掛けや対応をしている。 ・保護者へは伝わりやすい方法で情報を伝えている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	8	・事業所の行事に地域住民が参加することがしづらくない。	・近隣の住民との交流が持てる活動等を検討する。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9		・毎月避難訓練をしている。	・避難訓練の様子や事業所のマニュアルについて保護者へも伝えていく。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9		・会議の中で研修・実践を行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	9		・アセスメントの段階で把握している。	・健康面に関しては全職員で把握していく。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		9	・食物アレルギーがある児童がいない。	・アセスメントとしてアレルギーについて尋ねる。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9		・安全計画の共有と研修訓練を行っている。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	9			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9		・ヒヤリハットが起きた際にはその日のうちに共有し対策を検討している。また、報告書を作成している。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9		・事業所内での虐待防止研修を行っている。	・外部研修にも参加していく。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	9				